

第一席

抑揚の無き人とある残暑かな

秋の蟬もぐら叩きの鼻に傷

カレー屋のメニューは手書き大花野

私立名古屋高等学校 二年

三 浦 英 雄

第二席

夕立の後を樹液のにほふ道

芸上手き野良犬の来る海の家

宿の子に教はる真桑瓜の味

私立名古屋高等学校 二年

加 納 輝 一

第三席

代車には代車のにほひ濃紫陽花

豆苗が涼しき月へ伸びてゐる

回送の列車に車掌夜の秋

私立名古屋高等学校 一年

福 田 匠 翔